



消防大学校だより

救急科における教育訓練

消防大学校では、救急隊長等に対し、高度の知識及び能力を総合的に修得させるとともに、指導者としての資質を向上させる事を目的に、専科教育として「救急科」を設置しています。

本年度の救急科第 85 期は、全国から集まった 47 名が訓練の企画及び運営方法の習得、幹部職員としての必要な知識の習得、各地域での取り組みや課題についての情報交換などについて、課程全般において学生が主体となって自ら考え実践する教育訓練を行いました。

入校期間は 10 月 4 日から 11 月 10 日の 38 日間（10 月 4 日から 10 月 6 日までリモート期間）にわたるものでしたが、47 名全員が必要な課程を修了し卒業しました。

今回は、救急科において実施した「多数傷病者対応訓練」と「技能管理(訓練運営)」について紹介します。

1 多数傷病者対応訓練

消防大学校では、多数傷病者事案に関する講義（4 時間）、シミュレーション訓練（3 時間）、実動訓練（4 時間）を通し、多数傷病者事案に対する活動全般の流れを確認するとともに、医療資源や地域性等が異なる消防本部の学生が合同で訓練を行い、検討会等で意見交換することにより自身のスキルアップはもちろんのこと、得られた知識・経験を各所属に持ち帰り地域住民の安心安全につなげることを目的として、多数傷病者対応訓練を実施しています。

救急科第 85 期の多数傷病者対応訓練は「スクールバスと普通乗用車の事故による多数傷病者事案」という想定で、シミュレーション訓練を 3 回、実動訓練は杏林大学から DMAT 医師、看護師及び調整係員に参加していただき、さらには杏林大学保健学部救急救命学科の学生 24 名に傷病者役等として協力していただきながら 2 回実施しました。消防と DMAT、大学生の 3 者合同訓練で、より現場に近い実践的な形で訓練を実施できました。

消防大学校の学生間では「これ程大規模に訓練できることがなく、大変有意義な訓練でした」「災害時の全体像を把握することの難しさを知れました」「自分の所属ならどうするべきか、持ち帰って検討したい」等積極的な意見交換が行われ、現場における指揮能力、部隊運用、医療との連携、トリアージ対応能力の向上等に努めました。



実動訓練の様子

2 技能管理(訓練運営)

消防大学校救急科では、訓練班として 6 班編成し、各地域の特色や訓練方法について意見交換を行いながら、時間管理や検討会運営を含め、各班が作った想定で訓練を実施する「技能管理」という研修があります。今回も、検討会を含めた訓練全体を評価する班を設定し、全体を評価。さらにその評価を含めた全てについて、救急救命東京研修所の徳永教授と支援教官 2 名が評価しフィードバックを行うという、指導救命士制度の骨子である屋根瓦方式の教育を実践しました。

終了後のアンケートでは、「シミュレーションの訓練企画を、指導的立場の方がどうやって企画進行していくかを、詳細に教えていただいたことが良かった。」「訓練を企画する要領や考え方を、各消防本部の違いも含めて学べて大変有意義でした。」「技能管理（訓練運営）に向けて班員とたくさんの議論と検討ができたのは、有益性が高かった。良い経験と知識の共有を深く感じることができた。」等の意見があり、所属に帰ってから、各種訓練に有効に活用していただけたと考えています。

救急科第 85 期を卒業した学生は、消防大学校で修得した高度な知識・能力に加え、全国の仲間たちとの絆を活かして情報交換をし、各所属で幹部職員・指導的立場の救命士として救急業務に取り組むなど、様々な場面での活躍が期待されています。



訓練の様子



検討会の様子



消防大学校だより

緊急消防援助隊教育科: NBC コースにおける教育訓練

消防大学校では、今年度で 13 回目となる緊急消防援助隊教育科 NBC コースを約 3 週間の日程で開催しました（令和 5 年 9 月 7 日～9 月 28 日）。

緊急消防援助隊教育科 NBC コースは、緊急消防援助隊の NBC 災害要員等に対し、NBC 災害対応業務に必要な知識及び能力を修得させるための教育課程となっており、今後開催予定の「2025 年大阪・関西万博」など、国際的大規模イベント開催に向けて NBC 等大規模テロ災害における対応能力を充実、向上をさせることも教育の目的としています。

本コースは、講義と訓練で組み立てており、講義にあつては、安全管理、現場指揮、広域応援対策、国民保護制度などを消防庁職員から学ぶとともに、C 災害対応、B 災害対応、対テロ対策、化学テロ対策及び NBC 災害時における医療対策などは専門の外部講師陣により学びます。

本年度は、総務省消防庁国民保護・防災部参事官室において、「消防機関における NBC 災害時の対応能力の高度化に関する検討会」も開催されており、この検討会の委員の方を講師としてお招きし充実した講義を実施しました。

訓練では、教育支援隊として東京消防庁、横浜市消防局、千葉市消防局にご協力いただき実働訓練を実施しました。その中で化学防護服、各種検知資機材及び救出資機材を使つての NBC 災害の実践的対応訓練も行いました。

災害状況を想定した訓練では、消防大学校の本館など建物内部を使用した訓練を行い、実際の災害を思わせるよう工夫を凝らしました。さらに、化学防護服を着装して階段の昇り降りを行い立体的な救出活動なども行い、学生たちに負荷をかけていきます。

今年の 9 月は記録的な暑さとなり、NBC 災害時の熱中症への対策も重要視されました。NBC 災害もいつ発生するか予測できません、学生は、過酷な気象条件下で集中的に訓練を行い、適切な水分補給方法、冷却ベストを着装し身体の冷却方法について学びながら、部隊を運用する上での活動限界など安全管理に注意を向けます。

NBC 災害が発生した場合は、傷病者が多数になることが予測されているため、NBC 災害は発生場所の消防本部だけではなく、広域応援として、NBC 即応部隊及び緊急消防援助隊が出動し対応します。

このような災害時には、警察、自衛隊など他機関との関係が欠かせません。陸上自衛隊化学学校における校外研修をはじめ、防衛省、警察庁から講師を招き各省庁の実態を把握することで関係に関する知識の向上に繋がります。

さらに、過去のテロ行為では神経剤により多数の傷病者が発生しております。傷病者の救命には、早期に神経剤解毒剤の自動注射を打つ行為が必要になってきます。本コースにおいても DMAT の医師を招き研修を実施していただきました。



訓練の様子

研修を終え学生からは「NBC 災害、CBRNE 災害における基本的な考え方や活動、最新のデータや知見に基づく今後進めていくべき消防の方向性を学ぶ機会を頂き大変有意義な研修でした。夏場の時期に開催でしたが現場活動における熱中症対策なども大変参考になりました。」などの感想もいただきました。

緊急消防援助隊教育科 NBC コースは時代の変化に合わせた教育プログラムにしています。本コースで得た知識や技術をそれぞれの所属での業務に活かしていただき、国民の皆様が安心して暮らせる社会を守るために活躍されることを期待しています。

問い合わせ先
消防大学校教務部
TEL 0422-46-1712